

第 17 回 渡良瀬遊水地湿地保全・再生検討委員会

議事概要

日時：令和 8 年 2 月 26 日（木）13:00～15:10

1. 開会

＜開会の挨拶＞

2. 事務所長挨拶

＜事務所長の挨拶＞

3. 委員長挨拶

＜委員長の挨拶＞

4. 委員の交代について

事務局）＜委員の交代を説明＞

5. 議事

（1）掘削の進捗状況と今後の掘削予定

事務局）＜資料－5 を説明＞

委員）・前回委員会で提示された水深の浅い水辺や干潟状の湿地環境は、シギやチドリ等の水辺を利用する渡り鳥にとって重要な場所になるため、別の場所で創出する掘削計画を今後も検討してもらいたい。

事務局）・干潟のような環境を創出できる候補地を別の場所で検討し、次回委員会等で提示したい。

委員）・重要な昆虫類の主要な生息環境を掘削回避エリアとし、掘削の影響を直接受けないように配慮する方針には賛成である。セイタカアワダチソウ等の侵略的外来植物の繁茂箇所も含めて掘削回避エリアとするのは妥当とはいえない。

事務局）・セイタカアワダチソウが繁茂する箇所は他にもあるので、現状はそちらを優先して掘削する方針とし、この箇所についてはその間取るべき対策を検討する。

委員）・セイタカアワダチソウが繁茂していた箇所の掘削土を水中に沈める対応について、水中で発芽はしないが種子の寿命は長く発芽能力が直ちに失われないことは認識しておく必要がある。

委員）・掘削から時間が経過し望ましくない環境になっている場所や、遷移により単調なヨシ原になってしまった場所がある。Google 社の支援プロジェクトのみに依存することなく、利根川上流河川事務所としても維持管理をすることを考えて欲しい。

事務局）・従前から回答が変わらず申し訳ないが、本事業は堤防整備用の土砂採取を目的としており、合わせて湿地環境の創出を行っており、維持管理までは、事業のなかでは

できないということに状況の変化はない。わたらせ未来基金の皆様をはじめ市民参加で色々な形で維持管理にご協力いただいているので、事務局としてもその中で支援できる部分があれば引き続きご協力させていただきたい。また、大きな出水後の調節池の維持管理として堆積土砂の除去・掘削といった対応は想定される。

委員)・渡良瀬川の河床低下や土砂の供給状況等の広域的な変化と掘削地の水位との長期的な関係について整理していくと、今後の湿地環境の創出・維持について理解が進むと考える。

事務局)・掘削地の水位だけにとらわれず、渡良瀬遊水地周辺で生じている渡良瀬川の河床低下や広域地盤沈下といった現象をもう少し広域的に把握してこの地域の傾向をみながら、次の掘削地の検討に反映していきたい。

委員)・前回委員会で提示された掘削候補地の目標像は定性的な表現となっており、コウノトリが採餌しやすい環境の創出面積を数値で評価する等、数値目標を設けたほうが良い。

(2) 令和7年度のモニタリング調査結果

事務局) <資料-6を説明>

委員)・地下水の観測はどの程度の頻度で行っているか。

渡良瀬川の水位低下や周辺の農地での取水、その他の理由など観測井により受けている影響が様々であろうから、水位の変動の要因を地点や深さごとに分類するなど総合的な解析を一度行うべきである。

事務局)・場所によって異なるが平成30年頃からはすべて連続観測を行っている。地下水位の変化については、流域全体の状況や気候変動等の様々な変化要因を踏まえた総合的な視点での整理を行い次回委員会では提示したい。

委員)・渡良瀬遊水地には過去に重金属で汚染された土壌が分布しており、その層が掘削により動かされることはないと認識している。ただし、地下水の流れによる影響は不明なため、念のため掘削した池の底質を対象に年1回程度で長期的に、数地点でモニタリングしてはどうか。

事務局)・第1調節池に貯水池を整備する際にも同様の議論はあったのではないかとと思われるので過去の調査結果等を確認するとともに、第2調節池の掘削地での調査についても検討する。

委員)・掘削した池の水位変化については透水係数があればモデルの検討により降水量以外の規定要因の解析が可能であるが、透水係数の情報はるか。

事務局)・透水係数については、調節池を設計した際のボーリングの結果があり活用可能と考える。解析の方法について委員の方と相談しながら、進めていきたい。

委員)・現在の調査は踏査を基本としたものであるが、今後はUAVを活用した効率化や市民参加型の重要種や侵略的外来種を対象とした調査の導入、人と自然との触れ合い活動の状況を把握し、来訪者がこの自然環境の利点をどのように享受しているかの把握も考えていく必要がある。

事務局)・モニタリング計画については、UAV等の新規技術による効率化、低コスト化を考

えていかなければならないと感じている。また、市民参加型の調査や来訪者の目的、ニーズの把握等については、市民活動と連携しながら考えていきたい。

委員)・人為攪乱型実験地では当初計画していた耕起による攪乱は実施しないのか。

事務局)・現状では想定していた水位よりも高く、耕起が難しい状況でこの実験地について何らかの対策は考えていないが、今後新たな掘削地を検討する際に干潟状の湿地環境を整備することを検討したい。

委員)・ゴミムシ類の経年変化結果からはいくつか環境変化を示唆する結果が蓄積されている。掘削した場所の評価を昆虫の出現数で評価できる可能性があるデータとなっているので、10年間のモニタリング結果を用いて一度解析を行うと良い。

事務局)・河川環境を数値目標をもって評価する時代が変わってきているので、頂いたご指摘を踏まえて、そういった視点で整理を進めたい。

(3) 市民の活動報告

委員) <資料-7を説明>

(4) その他

委員)・地球温暖化と水質変化について説明。

事務局)・第33回全国川サミット、渡良瀬遊水地でのイノシシ対応、Google社支援プロジェクト採択について説明。

6. 閉会

<閉会の挨拶>

以 上